長野県の近代都市形成　－19 市について－

cy11029　橋本茉帆
指導教員　前田英寿
副査　桑田　仁

1.　研究の背景と目的

私の生まれ育った長野県は大まかに長野、佐久、松本、伊那の 4 つの盆地に分けられ、かつては相互の交通網が発達していなかった。その中で合併を繰り返し、現在 19 の市が存在している。外部への広がりの少ない盆地に位置するこれらの都市が、どのように拡大し発展してきたのか、形成過程には何か特徴があるのか。私自身が長野県について知識が少ないことも本研究のきっかけとなった。明治 (大正)・昭和・現在の地図を比較しながら、それぞれの都市形成について、市街地を中心に長野県全 19 市を調査し、土地の履歴を追った。

2.　19 市の都市形成過程

長野県の市街地を分析する上で重要と考えられる城、街道、鉄道に着目する。長野県はかつて 200 以上の城が存在し、現在でも天守や外堀、門など城跡の残るものもあり城下町として栄えた都市は多い。江戸時代には中山道、甲州街道、北国街道、北国西往還を中心として参勤交代や物資の運搬が行われ、鉄道敷設前はこれらの街道が交通の要となり宿場が置かれた。大正から昭和初期にかけて広い範囲に鉄道が敷かれ、現在の都市の形態をつくり上げるきっかけとなった。

図 1　城跡（陣屋跡）

図 2　旧主要街道

図 3　鉄道と旧主要街道

写真 1　松本城

写真 2　高島城

写真 3　中山道

写真 4　甲州街道

写真 5　北国街道

写真 6　北国西往還

表 1　長野県 19 市一覧（2015 年現在）

市町村	人口 (人)	歴史	江戸時代の主要街道	主要駅
長野市	387,021	善光寺	北国街道	長野駅
松本市	243,687	松本城	北国西往還	松本駅
上田市	161,766	上田城	北国街道	上田駅
飯田市	108,302	飯田城	三州街道	飯田駅
佐久市	100,906		中山道	佐久平駅
安曇野市	96,269		千国街道	豊科駅
伊那市	71,241		三州街道	伊那市駅
塩尻市	68,925		中山道 / 北国西往還	塩尻駅
千曲市	64,450		北国街道 / 北国西往還 / 谷街道	屋代駅
茅野市	55,522		甲州街道	茅野駅
岡谷市	54,996			岡谷駅
須坂市	53,836	須坂陣屋	北国街道 / 谷街道 / 大笹街道	須坂駅
諏訪市	52,323	高島城	甲州街道	上諏訪駅
中野市	47,457	中野陣屋	谷街道	信州中野駅
小諸市	44,559	小諸城	北国街道	小諸駅
駒ヶ根市	34,007		三州街道	駒ヶ根駅
大町市	32,250		千国街道	信濃大町駅
東御市	32,114		北国街道	田中駅
飯山市	26,006	飯山城	飯山街道	飯山駅

■城下町の例：松本市

松本市は松本城の城下町であり、松本城は秀吉の家臣であった石川数正・康長父子により戦国時代末期にかけての築造と考えられている。城下町の形成のころから北国街道、千国街道、野麦街道が交わり交通の要衝であった。明治以降は、松本城の堀の一部が埋め立てられ、新たな都市形成が進められたが、城下町の町割りは残り続け路地や小路が多く存在している。さらに松本は、女鳥羽川と薄川の複合扇状地によって、豊富な地下水が湧出する湧水地帯である。市街地中心部には、今なお多くの自噴井戸や湧水が点在し、市民の手により手厚く保全されている。中でも特に有名な源智の井戸は、松本市内の名水のひとつで、松本に城下町が形成される以前から飲用に用いられた古い歴史を持っている。町の酒造業者はことごとくこの水を使い、歴代の領主は制札を出してこの水を保護したといわれている。(女鳥羽川は、内堀・外堀・総堀の三重の堀が巡る松本城の守りをさらに堅くするため、その流れを変え、堀としての機能を持たせたと言われている。川南の町人町と川北の武家地をはっきり分けている。) 松本は、松本城と自然 (河川や湧水) の影響を強く受け発展してきた城下町である。

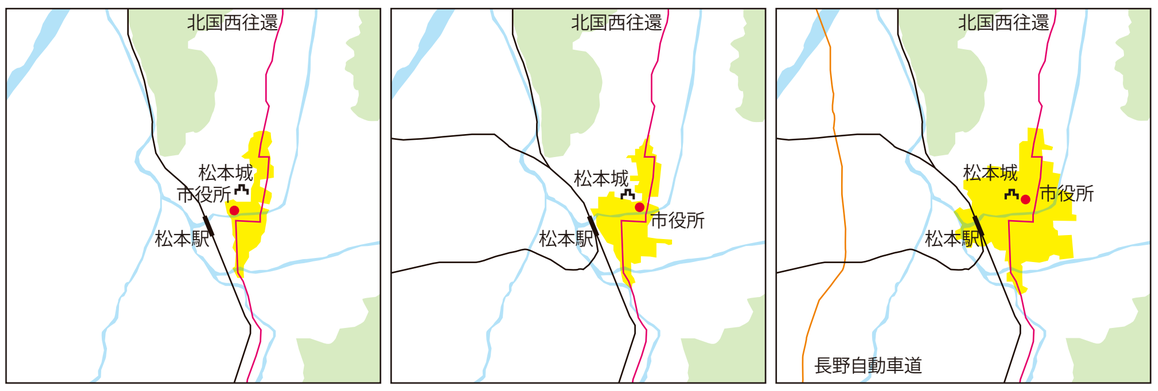


図 4　松本　大正 2 年・昭和 34 年・平成 7 年

■宿場町の例：長野市

長野市は、善光寺の門前町であるとともに、北国街道の宿場町として栄えた。北国街道は江戸幕府によって整備された街道で、善光寺参拝のための道であったことから善光寺街道とも呼ばれる。北国街道は善光寺までまっすぐに延びており、門前で曲がり高田 (新潟) へと続いている。門前には古い家屋や寺社が軒を連ねており、現在の道路の骨格をつくったと考えられる。長野市の宿場としては、篠ノ井追分宿、丹波島宿、善光寺宿、新町宿があった。中でも最も栄えたのは善光寺門前に開けた善光寺宿であり、北陸諸国の大名が参勤交代の定宿としていた。北国街道約 2km にわたり町が形成され、街道から奥へと延びる小路沿いから徐々に広がっていき、街道を中心に東西に拡大していった。現在市街化が進んでいるのは街道沿いのかつての繁栄地から鉄道までの範囲であり、交通の中心が鉄道へと変化するとともに市街地も移り広がっていったことがわかる。

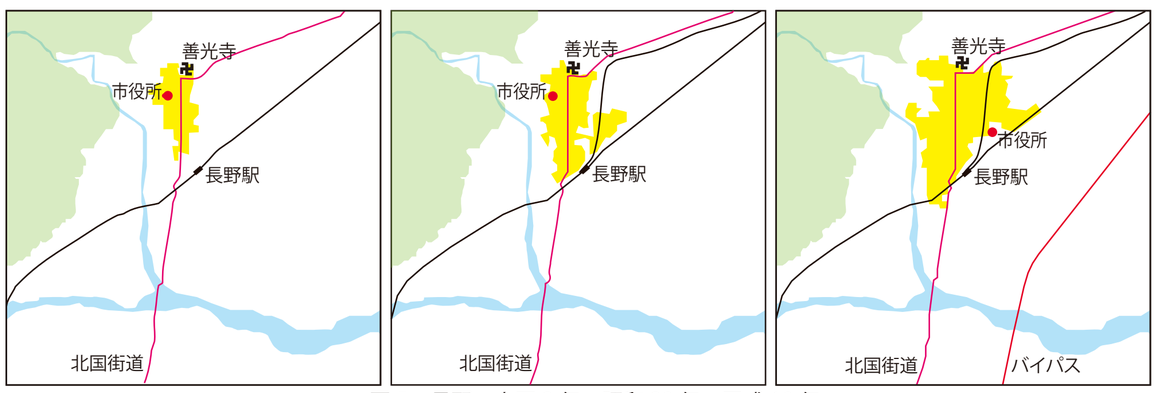


図 5　長野　大正 2 年・昭和 29 年・平成 10 年

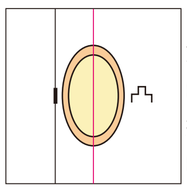
3.　19 市の都市形態

19 市を城下町・宿場町・その他に分類し、さらに城下町と宿場町の形成・拡大についてそれぞれパターン分けした。

■城下町パターン

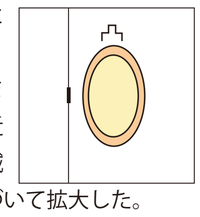
①城と鉄道の間に市街地が形成・拡大

城と鉄道(駅)の間に街道があり、城下・宿場・駅前が一体となって市街地が形成され、そのまま拡大してできたパターンである。主要な街道沿いに町ができ、その街道を軸に、城とは反対側に鉄道が敷かれた。(須坂市、飯田市)



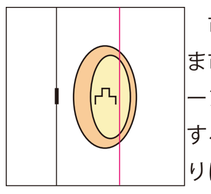
②城と鉄道で囲まれて市街地が形成・拡大

①が城と駅が鉄道に直に対面したのに対し、②は平行に並ぶ。城と鉄道 L 字型に囲まれて市街地が形成され、そのまま拡大してできたパターンである。城付近に鉄道が敷かれたが駅は離れており、城の前に形成されていた町が駅の方へ近づいて拡大した。(飯山市、上田市)



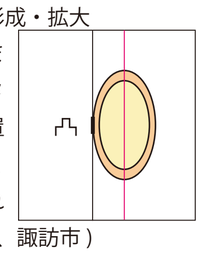
③城を中心に全体に市街地が形成・拡大

城の四方に全体的に市街地が形成され、そのまま拡大し、駅がその外にできたパターンである。街道沿いに町ができ、城から離れて鉄道が敷かれ駅の方へと市街化が進み、城が中心となる市街地がつくられた。(中野市、松本市)



④鉄道を挟んで城と反対側に市街地が形成・拡大

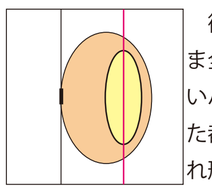
市街地と城の間に鉄道ができ、そのまま市街地は駅に達するまで拡大したパターンである。これは特徴的な地形に位置する城にみられる。城の近くに町がつくりにくい地形であったため、城から離れた場所に城下町がつくられた。(小諸市、諏訪市)



■宿場町パターン

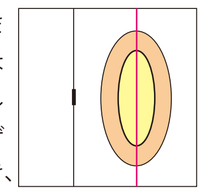
①街道沿いに形成された市街地が駅まで達して拡大

街道沿いに市街地が形成され、駅まで達して拡大したパターンである。街道が中心であった時代から鉄道社会への変化に伴い市街地も移っていった都市で、宿場町の近代都市化において最も一般的である。(長野市、千曲市、大町市、東御市、安曇野市、塩尻市、駒ヶ根市)



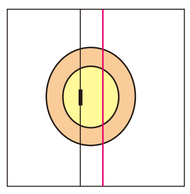
②街道沿いに形成された市街地が周辺に拡大

街道沿いに市街地が形成され、そのまま全体的に拡大したが駅には達していないパターンである。これは近年に合併した都市にみられる。街道を中心にそれぞれ形成されていた町にそれぞれ駅ができ、駅が複数になったことで中心的な市街地が形成されなかった。(佐久市)



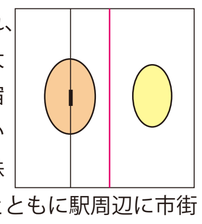
③街道と鉄道を中心に形成された市街地がそのまま拡大

街道の近くに鉄道が敷かれ、街道と鉄道を中心に市街地が形成され、そのまま周辺に拡大したパターンである。これはかつての宿場付近に駅がつくられたことにより、宿場の時代から現在まで中心地が変わらない。(伊那市)



④形成された市街地とは別に新たに駅周辺に市街地が拡大

街道と離れた場所に市街地が形成され、その後新たに駅周辺に市街地ができ拡大したパターンである。これはもともと宿場のあった場所が発達せずに、街道沿いではない場所で市街地が形成された特殊な都市である。鉄道中心の時代になるとともに駅周辺に市街地が移った。(茅野市)



■[城下町] ー [宿場町] の点数と市人口の相関図

城下町、宿場町の要素をあげ、1 つ当てはまるごとに 1 点として点数を付ける。それを各都市に照らし合わせ、[城下町]ー[宿場町] を計算し点数を出す。

例 1：須坂市

城下町要素①　城がある･･･1 点
城下町要素②　城下町がある (城が中心)･･･0 点
城下町要素③　城の構造物が残っている･･･0 点
城下町要素④　城の付近に街道がある･･･1 点　　小計 2 点
宿場町要素①　城がなく街道がある･･･0 点
宿場町要素②　宿場が 2 つ以上ある･･･1 点
宿場町要素③　街道が 2 つ以上ある･･･1 点
宿場町要素④　街道が現在も主要道である･･･1 点　　小計 3 点
[城下町]ー[宿場町]＝ー1 点

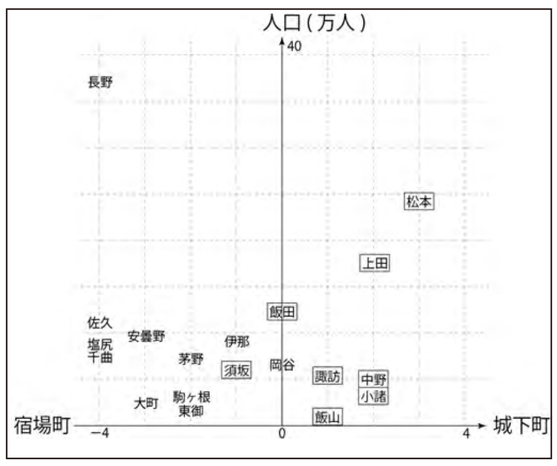


図6　[城下町]ー[宿場町]の点数と市人口の相関図

・城下町として取り上げた都市は全て、宿場町要素を少なくとも 1 つ持つ (須坂、飯山、中野、上田、小諸、松本、諏訪、飯田)。中でも須坂市は宿場町要素の強い城下町である。
・城下町よりも宿場町としての要素の強い都市の方が人口の多い傾向にある (長野市、佐久市、塩尻市、千曲市、安曇野市)。
・人口の多い長野・松本・上田は、それぞれ城下町もしくは宿場町どちらかの要素が強い。

さらに、地形 (山地、河川、傾斜) による比較を行った。市街地中心からの距離を測る同心円と断面図を作成し、距離や位置関係について分析を行った。

■地形による比較

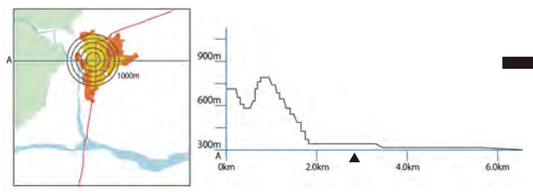


表 2　地形による制約条件

	山との距離が 1km 以内	山に挟まれている	河川との距離が 1km 以内	河川に挟まれている	傾斜地に位置する
(1) 長野市	○		○		
(2) 須坂市	○		○	○	
(3) 千曲市	○	○	○		
(4) 飯山市	○	○	○		
(5) 中野市	○	○			
(6) 大町市	○	○	○	○	
(7) 上田市		○	○		○
(8) 東御市	○	○	○	○	
(9) 佐久市			○		○
(10) 小諸市	○	○	○		
(11) 松本市		○	○	○	
(12) 安曇野市					
(13) 塩尻市	○		○	○	
(14) 岡谷市	○	○	○	○	
(15) 諏訪市	○	○	○	○	○
(16) 茅野市	○	○	○	○	○
(17) 伊那市		○	○	○	○
(18) 駒ケ根市			○	○	○
(19) 飯田市			○	○	

・自然の影響を強く受けている都市は、人口が少なく市街化が広域に及んでいないが、今後も大きく拡大しにくい都市であると考えられる。
・自然の影響をほぼ受けていない都市は、近年合併した都市に見られ、各市町村がつながりやすい立地であり、今後も合併の可能性があると考えられる。

4.　結語

長野県は山々に囲まれた盆地にあるため、ひとつひとつの町は小さかった。古くから交通に重点を置き、2 方面以上へとつながる交通の要衝が現在の「市」となっている。城下町よりも宿場町としての色が強い市が多く、街道と都市の形成が密接に結びついた街道中心文化であったと考えられる。

また近年合併した都市については市街地の分散が見られ、今後ひとつの市としてどのようにまとまりを持たせるが課題になっていくと考えられる。

5.　参考

[1] 長野、松本　各地形図　(国土地理院)
[2] 長野、松本　各市史　(各市編集委員会)
[3] 長野県市町村別人口統計
http://www.geocities.jp/warera_tikyujin/country_information/japan/pref_information/town200704/preft200704_20.html
[4] 国土交通省ホームページ
http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/souhatu/h18seika/05kyousei/05_syu_13youyaku11.pdf
[5] 歴史街道
http://www.dynax.co.jp/sinsen/shinano/k_c_shio.html